

令和5年度 保育所における自己評価（社会福祉法人たけの子福祉会 府中保育園）

●今年度の保育内容/子育て支援/保育運営を総合的に評価し、次年度の保育計画に生かしていく。

【評価の方法】ABCの3段階評価 ○前年度同じ ●前年から向上 ●前年度から低下 省察、次年度に向けて記述

【評価者】園長、主任、副主任、部門リーダー ※A…大変良い B…良い C…改善を検討

※項目は自己評価ガイドライン2020から作成、色塗り項目⇒各クラス年間の振り返り内容から抽出（R3～）

項目	内容	評価			省察・次年度に向けて	
		A	B	C		
① 保育の基本理念と実践	子どもの人権	子どもの人権に配慮し、互いに尊重する心を育てているか	○			<ul style="list-style-type: none"> 各クラス毎に個人の振り返りを実施することで職員の意識が上がり、子どもの成長発達に合わせたこえかけや援助など共通意識を持って保育をおこなうようになった。振り返りは今後も継続しおこなっていく。
	子どもの理解	子ども一人一人の発達過程に即した育ちの理解、職員間の共有ができていますか	○			
	ねらい・内容	乳幼児の年齢及び実態にあった短期・長期計画を作成し、ねらいに即した保育を実践しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達・興味関心に合わせて様々な環境設定を考え保育をおこなった。幼児クラスでは子ども同士の関わりを重視しルールのある遊びを積極的に取り入れている。 行事に関しては、コロナ禍の期間を経て従来の形に戻し実施していった。また、動画配信は継続した。 指導職員の副主任による【クラス保育指導】の実施を継続し保育の質の向上に繋げていくようにした。 異年齢の関りは年長児のお手伝い当番を中心に出来る範囲で関わる機会を設けた。徐々に従来の形に戻し日々の保育の中で異年齢の関わりを持つ機会を持てるようにした。
		子どもの興味関心を把握し、主体的な遊びや生活に取り入れているか	○			
	環境	子どもが自発的に関わる環境構成や、状況に即した環境の再構成をしているか		○		
	子どもへの関わり	子ども一人一人の個性を理解し尊重しながら、個々にあった保育を行っているか	○			
		子どもの『集団の中での育ち』や異年齢間の取り組みについて、職員が共通認識を持っているか	○			
		子どもと保護者の関係や個々の生活への配慮点を把握し、援助・支援をしているか		○		<ul style="list-style-type: none"> 行事後のアンケート回答等の機会を生かし、個々の家庭状況による意見に対して、丁寧に寄り添う回答を行った。園の対応の共通理解を進めた。
	行事・見通しに基づく保育	保育計画・記録を振り返り日々の実践に生かしているか	○			<ul style="list-style-type: none"> 毎月計画の反省を行い翌月の目標を立案している。クラス内での保育の振り返りの話し合いの時間を持つ事で、日々の保育の向上に繋げる事ができた。
		行事の時期と内容について育ちの見通しを持ち、実施しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> 行事終了後に反省会を持ち、改善点をあげ次年度の行事に反映させている。 保護者会前や行事ごとにアンケートを実施し、保護者の意見を聞き、園で検討した結果を回答している。 行事の全体係を決め進めている。各クラスの行事内容はクラスで役割分担して進めている。行事前のクラス指導を通し、クラスの取り組みにばらつきが出ないようにしている。
行事や日々の活動について、保護者の願いや意見を取り入れているか		○				
見通しに基づく保育実践のため、職員間の役割分担及び協力体制の構築は適切であるか			○			
② 家庭及び地域社会との連携	家庭に寄り添い専門性を生かした支援を行い、かつ保育所全体での支援体制を構築しているか	○			<ul style="list-style-type: none"> 送迎時に保護者とコミュニケーションをとり、子どもの成長発達や相談の対応をしている。内容によっては時間を作り、保護者と話をする時間を作り対応している。 	
	保護者との相互理解（情報提供、参観・懇談会等保護者参加行事）の機会を設けているか	○			<ul style="list-style-type: none"> 参観・懇談会・保護者会等を実施している。 不適切養育の可能性のある家庭については、行政機関と連携を取り個別連絡等の機会を増やし、担当以外の職員も保護者対応し園全体で支援している。 個別支援が必要な場合、どこまでの支援が必要であるか線引きの難しさがある。事例を重ね、園としての対応のマニュアルを作成していく。 組織的対応のマニュアルを作成した。 	
	不適切養育等が疑われる家庭への支援を行っているか	○				
	保護者の状況に応じた個別的支援を行いかつ情報のプライバシーは保護されているか		○			

項目	内容	評価			省察・次年度に向けて	
		A	B	C		
連携や子育て支援	地域子育て支援	利用希望者の保育所選択において、必要な情報提供を行っているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・園ホームページ、市役所等で情報提供に努めている。見学は積極的な受け入れを行っている。 ・地域への施設の貸し出しを行っている。コロナ禍以後、園庭開放や育児講座を実施できていない。 ・一時保育は随時受け入れを行っている。バスを運行したけの子クラブ（学童児預かり）事業を行っている。
	地域子育て支援	地域保護者等へ保育所の施設や機能を開放しているか			○	
	地域子育て支援	地域支援事業（子育て相談、一時保育、学童児預かり等）を行っているか	○			
	地域交流	地域の人々に関わりを持つ事を大切に、常に気持ちの良い挨拶ができるよう心掛けているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・散歩先で保育士が見本となり地域の方に挨拶することで子ども達が真似て挨拶する姿が見られた。地域の方からも職員の挨拶が気持ち良いというお声をいただいた。
	地域交流	自治体、関連機関、地域小学校等と適切に連携をしているか			○	<ul style="list-style-type: none"> ・南町小学校のコミュニティーに参加し、運動会で校庭や体育館をお借りした、学校見学に招待してもらおう等連携をしている。今後は療育機関との連携を深めていきたい。小学校教諭が年長クラスの保育の見学に来て学び合う機会を持った。
③ 保育の実施運営・体制全般	組織としての基盤整備	経営理念、保育目標、保育方針の記載及び組織内共有、保護者会等での説明をしているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・理念・目標・方針等は会議で唱和する機会を作っている。毎月の園だよりに理念の掲示をしている。 ・階級ごとのキャリアパスが明示されている。（保育実践マニュアルに記載） ・ムダ・ムラを改善する職員間の雰囲気がある。年2回職員一人一人の業務改善案を提出する仕組みがある。 ・全体係分担表等で役割分担が明確化されている。経験年数に応じた分担となっている。クラスリーダーが係を持った時など負担が偏ることが課題である。 ・会議はレジュメの作成を必須とし、時間・議題を明確にする流れになっている。 ・分園職員と本園職員の意識の差を埋めていきたい。
		管理職の責務や職務分担の明記また職員のキャリアパス体制が構築されているか	○			
		能率的、合理的な運営組織になっているか			●	
		職務内容が明確で協働できる体制になっているか			○	
		会議や打ち合わせについて、回数、時間、内容が適切かつ効率的にすすめられているか	●			
	社会的責任の遂行	業務に関連する法令等について、職員が組織的に遵守するための取り組みを行っているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・半年に1回の人事考課面接において、人事考課シートにチェックリスト項目がある。 ・職員全員が個人情報保護に関する誓約書を署名している。ルクミー連絡帳導入により、連絡帳の渡し間違いはなくなった。 ・公文書は役所のルールに従い、FAX禁止手渡しのみ等、適切に行っている。 ・苦情解決担当者を決め、主に園長・主任が対応している。
		個人情報保護に関する規定・マニュアルを整備し、実際に運用されているか	○			
		乳幼児、保護者に関する個人情報を適切に取り扱っているか	○			
		公文書の収受、発送、処理を適切に行っているか			○	
		苦情解決の仕組みが保護者に周知され機能しているか			○	
	健康及び	クラス運営に生かされるような具体的な保健対策を講じているか	○			<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨き指導、命の話、プール前指導等、看護師が保健指導を定期的に行っている。 ・0.1才児について個別の保健日誌を記入している。 ・毎月保健だよりを配布し、家庭と園で保健習慣を励行するよう働きかけている。
		一人一人の健康状態に応じて健康管理をおこなっているか	○			
		健康・安全な生活に必要な習慣・態度育成の為、家庭への啓発を行っているか	○			

項目	内容	評価			省察・次年度に向けて	
		A	B	C		
③ 保育の実施運営・体制全般	安全の管理（食育・設備含む）	内科健診・歯科検診・身体測定の結果を保護者に知らせているか	○			・身体測定の結果はルクミーシステムを用い家庭と連携できるよう伝えている。 ・アレルギー委員会を開催し、全職員でアレルギー対応を共有している。エピペンについて、看護師が中心となり職員研修を行っている。
		アレルギー疾患等を持つ子どもへの対応に配慮しているか	○			
		避難訓練を計画に基づいて適切に実施しているか	○			・避難訓練計画に基づき、様々なシチュエーションに対応できるよう想定し、毎月シークレットで訓練を行っている。
		乳幼児の安全確保のため、リスクを把握し、取り組み（交通安全、危機管理訓練等）を行っているか	○			・BCP計画を常に更新し、危機管理への意識を職員全体で共有できるよう取り組んでいる。 ・今年度、保健・安全分野のマニュアル・フローシートを最新版に改訂した。
		事故、感染症、食中毒、大災害時対応マニュアルがあり、機能しているか	○			
		調理室、調乳室の安全・衛生管理は適切に実施しているか	○			・調理部門を専門業者に委託し、食の安全管理に関する連携を大切にしている。 ・毎月の献立会議において、コスト面とのバランスを考えながら、保育現場の意見を反映できるよう工夫している。
		給食献立は、乳幼児に対しての工夫、配慮をしているか		○		・今年度後半に調理保育をおこなったが、食育全般の取り組みがコロナ禍以前の水準にまだ戻らない状態である。令和6年度改善していきたい。
		園児の年齢（月齢）を考慮した食育計画で、食育を実施しているか			○	
		施設内外設備の安全点検を計画的に行っているか	○			・新園舎において新しい安全点検表を作成し毎月の点検の中で更新を続けている。 ・保育備品の管理について、フリー職員が中心となり、最適な保管場所を模索しながら整理・整頓に取り組んでいる。倉庫や多目的室などのスペースの有効活用を検討していきたい。
		保育備品、用具類を活用しやすいように整理・保管しているか		○		・不審者侵入に備え、隠語を共有し訓練を行っている。 ・園内掲示、Web、メール等を活用し、保護者への周知徹底を図っている。
	不審者等に対応する周到な配慮を行っているか		○			
掲示版、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか		○				
職員の資質向上	キャリア別の研修計画に基づき、体系的な園外・園内研修を実施しているか	○			・令和5年度はキャリアアップ研修に3名が参加し、指導層の保育の学び向上につなげた。 ・園内研修は新人・新任を中心に年10回程度実施。園内研修を中堅職員が計画し実践する機会を設け、指導する側の立場を理解し、全体の意識共有の底上げに取り組んだ。	
	職員一人一人の研修機会を確保し、研修参加後の成果の共有・活用が行われているか	○				
	実践研究を通して職員同士が主体的な学びあい、日々の保育実践に生かしているか	○			・毎月のカリキュラム会議の中でクラス毎の保育実践をおこなった。実践研修を行う事で保育について議論し学びを深める事に繋がった。	
合計		34	13	2		
前年合計		33	14	2		

総評・課題

総合評価 【 A 】

- 令和5年度は令和4年度と比較するとABC評価の増減があったが、A評価が一つ多くなった。令和5年5月コロナ5類移行後も食育や地域への取り組みが回復できていない状況があるが、キッズファームのさつまいも収穫、調理保育等、取り組みが増えてきている。
- 新園舎の環境整備が一段落し、はだし保育ができる園庭、築山、総合遊具、屋上遊具の完成で屋外の環境は整ってきた。今後はヒヤリハットの取り組み等を生かし、園全体で危険箇所や死角等検証し安全に遊べるよう配慮していく。
- 厚労省2020年の自己評価ガイドラインに基づき園で作成した保育所の自己評価の仕組みを生かし、それぞれのポジションの職員が子どもにとって最善の声掛け、接し方ができるよう職員同士で期ごとに確認しあう事を大切にしたい。自己評価の項目を意識できる職員、意識が低い職員とばらつきがないよう、クラス保育指導などの機会を活かし、職員間でアドバイスしあえる関係を保っていききたい。自己評価は地味な取り組みとなるが、人材育成の一環として質の高い保育運営につながっていくよう園全体で取り組んでいきたい。